

カラス

千歳市 宮本 健市

	<u>ハシブトガラス</u>	<u>ハシボソガラス</u>
学名	Corvus macrorhynchos	Corvus corone
英名	Jungle Crow	Carriion Crow
漢名	嘴太鳥	嘴細鳥
アイヌ名	シパシクル	カララクカムイ
生活の場	市街地や都市部	木立の点在する農村部漁村部
サイズ	L57cm W105cm	L50cm W99cm
嘴	太い	細い
額	盛り上がる	平ら
鳴き声	カー カー	ガー ガー
鳴き方	体をすこし上下させて	頭を上下させてお辞儀
歩き方	ホッピングが多い	ウォーキングが多い
営巣中の攻撃性	強い	弱い



写真:ハシブトガラス

2021.4 野幌森林公園では、
営巣中の天然記念物・クマ
ゲラが襲撃され、被害に。

北海道で見られるカラスの仲間はスズメ目 カラス科のハシブトガラス、ハシボソガラス、ミヤマガラス、ワタリガラス、ホシガラス、ミヤマカケスで、その中で日ごろ、よく見かけるのはハシブトガラスとハシボソガラスですが、どこが違うのでしょうか大まかには上記のとおりですがもう少し詳しく調べて見ました。

以下ハシブトガラスを「ブト」、ハシボソガラス「ボソ」と記述します。

ブトは南方系でボソは北方系です。

カラスは、他の野鳥と比べると学習能力が高く非常に頭の良い野鳥です。

市街地などでよく生ごみに群がりそれを散乱している所を見かけることがあります。各自治体などもことごとく手を焼いているところが多く、駆除するにも街中では猟銃を発砲することもできないことをカラスは皆お見通しなのでしょう。かといって罠で捕獲しようにも最初のうちは経験の少ない若鳥が多少かかる程度で学習能力が高くなかなか捕獲するのが難しいのが現状です。究極のカラス捕獲器が開発されない所以です。

寿命は約 15 年から 20 年とされています。嘴は物を噛む力が非常に強く(150kg/cm²)食べ物を引き裂くのに都合良くできています。

アイヌ名のブトのシパシクルは、性格が荒く人を襲ったり悪事を働くから「糞ガラス」という意味です。一方ボソのカララクカムイは「カララクと鳴く神様」で貝を上空から落として割って食べたり、遊び心があり公園の滑り台や雪の斜面で滑って遊んだり、最近では車にオニグルミをひかせて割って食べたり、電線で鉄棒をしたりと頭が良いことを昔からアイヌ民族は観察していて神様の名を与えてなのでしょう。

体型はブトの方がボソより一回り大きく嘴もブトの方が太くて大きい。額はブトの方は盛り上がっていてボソの方は平らで慣れると見分けることができます。鳴き声はブトの方は体に似合わずカー カーと体を少し上下させて澄んだ声で鳴き、ボソはガー ガー頭を上下させお辞儀をするように濁った声で鳴くので声と鳴き方で遠くに居ても区別することができます。羽根はカラスにとって、とても大切なもので、日頃の手入れに怠りがありません。カラスの水浴びもその一つで、そのほかに蟻浴びといって蟻の巣の上で羽根に蟻を這わせたり蟻を嘴でつかみ羽根にすりつけ蟻酸でシラミなどが付くのを予防したり、薪を暖房の燃料にしている家屋の集合煙突で煙り浴びをしシラミが付くのを予防したり、日光浴も大好きで、ある天気の良い日に芝生の上で羽根を広げてうっとりとしている「危ない顔をした」カラスを見たことがあります。砂浴びもするようです。

生活の場はブトは(ヤマガラス)といわれて森林を好み一昔前は林の縁であったが最近人は人が排出する高級食材の生ゴミ(餌)に引き寄せられて都市部に移動しています。料亭から出た私など口にしたことのないような料理などを食べていてとてもグルメでリッチな生活をしています。

よく東京にはたくさんカラスがいて早朝など生ゴミに群がっているが、大阪にはカラスがいないと言われます。なぜかというゴミの収集時間が東京は朝なので生ごみにカラスが群がり大阪は深夜なので生ゴミがなくカラスがいないのです。ガラスを撃退するには兵糧攻めが一番とよくいわれます。ボソは(サトガラス)といわれて開けたところを好み木立の点在する農村部や漁村部などで生活していて畑を耕しているトラクターの後に付いて歩き昆虫の幼虫をたべているのを見かけることがあります。

食べ物もボソも雑食性で木の実、昆虫、小動物や野鳥などで。木の実にはヤマグワ、イチイ、オニグルミ、ハリギリ、ホオノキ、ツタ、ナナカマド、エゾニワトコなどを食べていて種子はペリットとして吐き出し森造りに一役かっています。

昆虫では甲虫類やその幼虫、トンボなどで特に子育て中の雛の餌は甲虫類の幼虫が多く公園の芝生を剥がして幼虫を探したり空港の芝生に大群で集まり幼虫を探して航空機の運航を止めたりと問題になります。

シジュウカラなどの野鳥を襲うときは巣の近くで巣の中の雛の鳴き声を聞いて巣立つ時期を判断し巣立つ瞬間を襲います。巣立った瞬間の雛が直線にしか飛ぶことができないことを学習しているようです。

餌の少ないときは貯食をしていて、それを食べて空腹を満たします。貯食の方法は日持ちの良い物としないものを分けて貯食し日持ちのしないものから食べることが知られています。一週間くらいなら餌がなくても貯食で生きていられます。

喉には食べ物を入れる袋(63ml)があり貯食や雛への餌やりは喉の袋を使って運びます。

餌などを探して歩くときはブトは両足をそろえてホッピングが多く。ボソは足を交互に出してウォーキングのことが多いので遠くからでも区別することができます。

カラスは一度番いになると一生添い遂げるといわれていて、夫婦仲が大変良く電線にたくさん止っているカラスは雄雌 雄雌と夫婦で止っているらしいのですが見た目には雄と雌は区別することが困難です。オオハクチョウ、コハクチョウ、マガン、ヒシクイなど外観で雄雌の区別ができない野鳥はだいたい一生番を解消しないといわれています。

カラスは3月下旬から雄と雌が共同で巣作りをはじめ、高い木の上の枝の間や電柱の上などに巣を作ることが多いです。土台には太めの枝などを使い、最近ではクリーニング店が使う針金のハンガーを使うため電柱の巣では電線に触れてショートし停電の原因になるため電力会社はカラスの巣を撤去するため苦勞を強いられています。最近ではハンガーにこだわり土台がいろいろの色のハンガーだけという美しい巣を見かけることがあります。色を識別できるので美的センスがあるのかも知れません。

産座には軟らかく保温性の高い動物の毛(冬毛が抜け替わった物、エゾシカなどの事故死した物の毛)、犬の毛(特に老犬の背中に乗って毛をむしり取る老犬にとっては受難の季節)などで雛にとっては実に居心地が良いように造られています。産卵は3~5個の場合が多く、抱卵(順次抱卵)は雌の役目で雄は付近の警備や雌への餌運びなどで結構いそがしいです。

余談ですが、昔から童謡で「カラス なぜ泣くの カラスは山に 可愛い 七つの子があるからよ」と歌われてきましたが昔のカラスは、多産だったのでしょうか。または七歳にもなるまで子供を育てたのでしょうか。実は人の子供にたとえたものらしく昔は子供の死亡率が高く七歳まで育てば一安心ということから巣には元気に育っている可愛い子供がいると歌ったものらしいです。

秋から冬にかけて夕方になると人があまり立ち入らない公園の林などを集団でねぐらし数百羽、時に

は千羽を超える大群になることがあります。

よくカラスに襲われたと新聞などに報道されることがありますが人を攻撃するのはブトの方でボソは人を攻撃することはまずありません。ブトが人を攻撃するのは子育て中の一時期で特に雛が卵からふ化してから巣立って飛べるようになるまで(巣立ってもしばらく飛ぶことができず巣の近くの木に止っていることが多い)の間、親は非常に神経質(マタニティーブルー)になり、この時期巣の近くや雛の近くを通ると攻撃の対象となります。カラスは前述したように非常に頭が良く石を投げられたり、いたずらされた人の顔を覚えていて何度でも攻撃されることとなります。攻撃の方法は人の背後から低空飛行で接近し足の爪で頭を蹴る方法で流血を見ることもあります。攻撃する相手も弱い人を攻撃します。1 子供 2 老人 3 女性の順で確率が高く、まず屈強な青年を攻撃することはありません。自分が危ないことを理解しています。攻撃の前には予兆があるので、ある程度攻撃を回避することができます。1 大きな声で鳴いている 2 鳴きながら巣の付近や雛の周りを旋回する 3 枝に止り嘴で枝をたたきコンコン音をだす 4 枝や葉を折って落とすなどの予兆があるときはその場所を離れたほうが無難でしょう。

攻撃されそうになったときの対処方法として頭の上に手を振らずにまっすぐに上げて歩くとよいらしいが人に会おうと「危ない人」に見られる可能性があります。手を振ると攻撃されたと勘違いし攻撃されます。間違っても反撃はしないことです反撃すると攻撃をさらに増長することとなります。被害防止のため空の巣は撤去しても良いですが卵や雛のいる巣を撤去すると鳥獣保護法に抵触するので注意が必要です。

野幌森林公園などでエゾフクロウのいる近くでカラスが騒いでいることがありますが、民話によると「カラスは、もともと白い鳥でしたがエゾフクロウの染物屋に白い色は飽きたので綺麗な色に染め変えを頼んだところエゾフクロウもいろいろと考えたあげく黒地に金色や銀色で模様を染めたら美しいと考え、いきなりカラスを黒く染めてしまい怒ったカラスはエゾフクロウを追いかけ回し、今ではカラスの飛ばない夜しか出歩くことが出来なくなった。カラスはいまだにガー ガー、カー カーと抗議して騒いでいる」というものがありますがエゾフクロウはカラスの巣の雛を襲うことがあるためにエゾフクロウがいると大群で集まり攻撃行動をして騒ぎます。エゾフクロウにしてみれば夜勤明けで眠いののに気の毒です。アメリカではこの習性を利用してフクロウのデコイでカラスを集め一網打尽に駆除する猟があるそうです。

サッカーファンなら御存じと思いますが日本サッカー協会のシンボルマークは3本足のカラスです両足で立ちもう1本の足で赤いサッカーボールをつかんでいるカラス「ヤタガラス」です。

漢字は「八咫鳥」咫(あた)は長さの単位で約18cmの長さです。八咫は8×18で144cmになりますが、そのような大きいカラスがいたのでしょうか？

古事記には神武天皇が大和朝廷を立てるために東征仲のとき和歌山県の山中で道に迷っていると、どこからともなく3本足のカラスが現れて道案内をしたと書かれています、これが八咫鳥です。

日本サッカー協会は日本に初めてサッカーを紹介したのが和歌山県那智勝浦町出身の中村覚之助(1878～1906)であり縁が深いことから1931年にシンボルマークに採用しました。

2011年に世界遺産に登録された和歌山県の熊野三山(本宮大社・速玉大社・那智大社)の神鳥でもあり大切に祀られています、特に那智大社の厄除けの護符牛王宝印は75羽のカラスで文字が書かれ「那智滝宝」ト書かれています。

アラスカの先住民はワタリガラスを天地創造の神とあがめトーテムポールにワタリガラスを彫刻し村の中に立てています。世界中にもいろいろのカラスの神事にまつわる話があり、やはりカラスはただ者ではないのかも知れません。

「たかがカラスされどカラス」です。カラスをテーマに2時間くらい観察会が出来そうです。皆さんも注意深く観察されてはいかがででしょうか。新しい発見があるかもしれません。